

2025年度 千住学部時間割

科目名称	教職概論（小・中・高）（中・高）
授業コード	BN207
英語名称	Introduction to the Teaching Profession
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	吉村 日出東
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本授業は、学制導入以来体系化された教育の中で、公的地位を受けた教員の歴史的展開を通して教職とはいかなるものであるのか講義する。特に近代職業として成立した教員は、社会の変化と密接にかかわることとなり、学校における教育内容の変化や社会体制の変質等とともに、教員に対する社会からの要望も変化してきた。こうしたことを踏まえ、教師教育(養成、再教育)の課題と今日の教師の資質能力とは何か考えていく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	中学校教員としての経験を踏まえて、担当者の持つ学校教育現場の経験的な内容についても講義する。
到達目標	本授業は、教職が近代職業として成立したことを出発点とし、 時代とともに教員に対する社会の要望が変化していることを理解できる。 現代社会において、教師に求められる資質とは何かを自ら考えられるようになる。 教員の社会的地位についての課題や教師の役割について解決を目指せるようになる。 中等教員に求められる資質とは何か考えられるようになる。 (科目特有の知識・技術についての到達目標) また、 教職と教師についての学修を通して、社会における職業人としての教師について、行動できるようになる。 (汎用能力としての学士力についての到達目標)
計画・内容	第1回 教師とは 第2回 教育法規上の教員の位置づけ（特に、中学校および高校について） 第3回 近代学校制度について 第4回 近代教師の誕生 職業としての教師 第5回 近代教師の誕生 教師像の変遷 第6回 学校における女教師について 第7回 教師の生活 第8回 アメリカ教育使節団報告に見る教員養成 第9回 ユネスコと国際的な教師像 第10回 現在の学校と教師の活動 学級経営（特に、中学校および高校について） 第11回 現在の学校と教師の活動 職務分掌（特に、中学校および高校について）

2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第12回 教師に必要な資質とは何か 地域連携（特に、中学校および高校について）</p> <p>第13回 教師に必要な資質とは何か 生徒の人生に関わること</p> <p>第14回 現代社会の教育事件から教師は何ができるのか考えよう</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>
授業の進め方	<p>講義中心に授業を進めていくが、適宜質疑応答を加え、学生が積極的に授業に参加できるように進めていく。</p>
能動的な学びの実施	<p>質疑応答等、積極的な授業態度を求めます。</p>
授業時間外の学修	<p>予習は求めませんが、現代社会に関するニュース等に関心を持って理解するよう心がけてください。復習としては、教科書に使用する『学習指導要領』は、何度も繰り返し読んで、内容理解に努めてください。</p> <p>予習：参考図書等のもくじに目を通す 復習：講義レジュメの整理・理解 （合計60時間程度）</p>
教科書・参考書	<p>教科書： 『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』 なお、補助教材としてプリントを配布します。</p> <p>参考書： 村井実『アメリカ教育使節団報告書』講談社学術文庫、『文部省百年史』、『文部省百二十年史』</p>
成績評価方法と基準	<p>定期試験と授業において課すリアクションペーパー、レポートで評価する。概ね、試験8：レポート2</p>
課題等に対するフィードバック	<p>課題等については、可能な限り解説を行う。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>非対面授業なった場合は次の通りとします。</p> <p>「授業の進め方」 授業回で取り上げる「計画・内容」は、上記の対面と同様のものを基本として行います。但し、非対面のため、掲示に授業の課題と講義を提示しますので、それに対して、レポートをレポート欄に提出してもらいます。この場合、そのレポートの進捗状況に応じて、「計画・内容」の一部変更、分野ごとの増減など、を行うことがあります。</p> <p>成績評価基準」 成績は、非対面の中で提出してもらったレポートと最後に課す「試験に替わるレポート」を総合して評価します。</p> <p>評価の割合は、 毎回のレポートを70%、試験に替わるレポートを30%</p>

2025年度 千住学部時間割

科目名称	理科教育法 (学教)
授業コード	BN215
英語名称	Teaching Method of Science 1
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	植木 岳雪
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	理科の基本概念と子ども理解に基づいた指導法、指導技術、教材化についての理解を深め、中学校教員として理科を担当するために必要な基礎的知識を身に付け、有為な教員として行動できる能力と態度を養う。この科目では、学校と学級における理科のあり方を理論と実践を通して学ぶと同時に、授業導入のミニ実験と中学校1年生の理科の模擬授業を行う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	公立高等学校教員としての実務経験を有し、学校における教科指導と児童・生徒指導の実践を教授する。
到達目標	<p>CP；各教科の指導に必要な諸手法や社会と学校との関わりについて学び、教育手法や技能を育成する科目（指導法関連科目・教職応用科目）に相当する。</p> <p>DP：教職に求められる専門的知識を習得し、学識と技能を身につけ、様々な課題について、各領域で習得した幅広い知識をもとに、解決策を提案することができる。【基礎力・思考力】 生徒の発達段階を踏まえ、学校や学級における理科のあり方を学ぶとともに、理科に特徴づける内容、指導法、評価などを理解する。</p> <p>DP：教職に求められる専門的知識ばかりでなく、教育者として求められる教養を身に付け、一人ひとりの子どもの学習と生活を支援する実践的指導力を有している。【教育実践力】学校における教育実践を省察し、自らの専門性を高めていくことができる。【学び続ける力】 中学校学習指導要領（理科）に示されているねらいや指導内容に基づいて、学習指導計画や指導案を企画・立案することを目指す。</p>
計画・内容	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：大学周辺の自然観察</p> <p>第3回：学級づくりの方法と実際 人間関係の構築</p> <p>第4回：学級づくりの方法と実際 自己表現</p> <p>第5回：学校教員とは 理科を教える意味</p> <p>第6回：理科に関する板書の方法</p> <p>第7回：ミニ導入実験 教室内指導と評価に視点を定めての導入実験とリフレクション 物理・化学分野</p> <p>第8回：ミニ導入実験 教室内指導と評価に視点を定めての導入実験とリフレクション 生物・地学分野</p> <p>第8回：学習指導案の作成 先輩の模擬授業見学</p> <p>第9回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校1年理科単元1</p> <p>第10回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校1年理科単元2</p> <p>第11回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校1年理科単元3</p> <p>第12回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校1年理科単元4</p> <p>第13回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校1年理科単元5</p> <p>第14回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校1年理科単元6</p> <p>第15回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校1年理科単元7</p>

2025年度 千住学部時間割

授業の進め方	最初は学級びらき・学級づくりに関する講義と実践、次に理科の授業の導入のためのミニ実験の実験、指導案の作成、最後は中学校1年理科の学習指導案作成と模擬授業を実践する。模擬授業では、内容、方法、教材等について検討し、授業改善を図る。また、授業の導入としてのミニ実験を各自で考え演示する。
能動的な学びの実施	ミニ実験と模擬授業は各自で行い、授業構想から学習指導案の作成、教材やワークシートの準備、授業などを行う。授業時間以外にも、自主的に活動する必要があり、必然的に能動的な活動が生まれる。
授業時間外の学修	授業構想から学習指導案の作成、教材やワークシートの準備、授業などを自主的に行う。15回で約60時間相当の授業時間外の学修が必要である。
教科書・参考書	中学校学習指導要領解説理科編を文部科学省HPからダウンロードする。 中学校1～3年生の理科の検定教科書（授業開始後に取り寄せます）。適宜プリントを配布する。
成績評価方法と基準	模擬授業などの実技（40%）、指導案や検定教科書をまとめる課題などの提出物（30%）、授業への取り組み（30%）を総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	評価点をつけた課題を授業で返却し、解説する。
オフィスアワー	CampusSquare参照。
留意事項	中学校・高等学校教員免許（理科）の必修科目。5回以上休んだ場合単位を与えない。遅刻2回で欠席1回とみなす。模擬授業を無断で休んだり、指導案を期限までに提出しなかったりした場合、単位を与えない。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	zoomによる遠隔授業を取り入れるが、ミニ実験や模擬授業などは対面授業で行う必要があることから、可能な限り対面を取り入れる。メールとzoomなどを使って、随時指導する。 授業への取り組み、ミニ実験や模擬授業、学習指導案の内容を総合的に判断する。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	理科教育法 (1組)
授業コード	BN265
英語名称	Teaching Method of Science 2
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	植木 岳雪
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	理科の基本概念と子ども理解に基づいた指導法、指導技術、教材化についての理解を深め、中学校教員として理科を担当するために必要な基礎的知識を身に付け、有為な教員として行動できる能力と態度を養う。この科目では、中学校2・3年生の理科の模擬授業を主に行い、学習指導要領の内容も学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	公立高等学校教員としての実務経験を有し、学校における教科指導と児童・生徒指導の実際を教授する。
到達目標	<p>CP；各教科の指導に必要な諸手法や社会と学校との関わりについて学び、教育手法や技能を育成する科目（指導法関連科目・教職応用科目）に相当する。</p> <p>DP：教職に求められる専門的知識を習得し、学識と技能を身につけ、様々な課題について、各領域で習得した幅広い知識をもとに、解決策を提案することができる。【基礎力・思考力】 生徒の発達段階を踏まえ、学校や学級における理科のあり方を学ぶとともに、理科に特徴づける内容、指導法、評価などを理解する。</p> <p>DP：教職に求められる専門的知識ばかりでなく、教育者として求められる教養を身に付け、一人ひとりの子どもの学習と生活を支援する実践的指導力を有している。【教育実践力】学校における教育実践を省察し、自らの専門性を高めていくことができる。【学び続ける力】 中学校学習指導要領（理科）に示されているねらいや指導内容に基づいて、学習指導計画や指導案を企画・立案することを目指す。</p>
計画・内容	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：学習指導案の作成，模擬授業の準備</p> <p>第3回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校2年理科単元1</p> <p>第4回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校2年理科単元2</p> <p>第5回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校2年理科単元3</p> <p>第6回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校2年理科単元4</p> <p>第7回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校2年理科単元5</p> <p>第8回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元1</p> <p>第9回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元2</p> <p>第10回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元3</p> <p>第11回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元4</p> <p>第12回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科 単元5</p> <p>第13回：中学校学習指導要領解説（理科編）の解説</p> <p>第14回：高等学校学習指導要領解説（理科編）の解説</p> <p>第15回：全体のまとめ</p>
授業の進め方	中学校2・3年理科の学習指導案作成と模擬授業を実践する。模擬授業では、内容、方法、教材等について検討し、授業改善を図る。

2025年度 千住学部時間割

能動的な学びの実施	模擬授業は各自で行い、授業構想から学習指導案の作成、教材やワークシートの準備、授業などを行う。授業時間以外にも、自主的に活動する必要がある、必然的に能動的な活動が生まれる。
授業時間外の学修	授業構想から学習指導案の作成、教材やワークシートの準備、授業などを自主的に行う。15回で約60時間相当の授業時間外の学修が必要である。
教科書・参考書	中学校学習指導要領解説理科編、高等学校学習指導要領解説（理科編）を文部科学省HPからダウンロードする。中学校1～3年生の理科の検定教科書（授業開始後に取り寄せます）。適宜プリントを配布する。
成績評価方法と基準	模擬授業などの実技（40%）、指導案や検定教科書をまとめる課題などの提出物（30%）、授業への取り組み（30%）を総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	評価点をつけた課題を授業で返却し、解説する。
オフィスアワー	CampusSquare参照。
留意事項	中学校・高等学校教員免許（理科）の必修科目。5回以上休んだ場合単位を与えない。遅刻2回で欠席1回とみなす。模擬授業を無断で休んだり、指導案を期限までに提出しなかったりした場合、単位を与えない。定期試験が基準に達しない場合、単位を与えない。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	zoomによる遠隔授業を取り入れるが、模擬授業などは対面授業で行う必要があることから、可能な限り対面を取り入れる。メールとzoomなどを使って、随時指導する。 授業への取り組み、模擬授業、学習指導案の内容を総合的に判断する。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	理科教育法 (1組)
授業コード	BN314
英語名称	Teaching Method of Science 3
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	植木 岳雪
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	理科の基本概念と子ども理解に基づいた指導法、指導技術、教材化についての理解を深め、中学校・高等学校教員として理科を担当するために必要な基礎的知識を身に付け、有為な教員として行動できる能力と態度を養う。この科目では、高等学校1年の理科の模擬授業を主に行い、学習指導要領の内容も学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	公立高等学校教員としての実務経験を有し、学校における教科指導と児童・生徒指導の実際を教授する。
到達目標	<p>CP；各教科の指導に必要な諸手法や社会と学校との関わりについて学び、教育手法や技能を育成する科目（指導法関連科目・教職応用科目）に相当する。</p> <p>DP：教職に求められる専門的知識を習得し、学識と技能を身につけ、様々な課題について、各領域で習得した幅広い知識をもとに、解決策を提案することができる。【基礎力・思考力】 生徒の発達段階を踏まえ、学校や学級における理科のあり方を学ぶとともに、理科に特徴づける内容、指導法、評価などを理解する。</p> <p>DP：教職に求められる専門的知識ばかりでなく、教育者として求められる教養を身に付け、一人ひとりの子どもの学習と生活を支援する実践的指導力を有している。【教育実践力】学校における教育実践を省察し、自らの専門性を高めていくことができる。【学び続ける力】 高等学校学習指導要領（理科）に示されているねらいや指導内容に基づいて、学習指導計画や指導案を企画・立案することを目指す。</p>
計画・内容	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：学習指導案の作成，模擬授業の準備</p> <p>第3回：理科教育の理論（理科教育の歴史）と模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 高等学校「科学と人間生活」単元1-1</p> <p>第4回：理科教育の理論（理科教育学研究の方法論）と模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 高等学校「科学と人間生活」単元1-2</p> <p>第5回：理科教育の理論（理科教育学研究の実践）模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 高等学校「科学と人間生活」単元2-1</p> <p>第6回：理科教育の理論（学習者に焦点を当てた教授・学習論）と模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 高等学校「科学と人間生活」単元2-2</p> <p>第7回：理科教育の理論（学習者を取り巻く他者や環境に焦点を当てた教授・学習論）と模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 高等学校「科学と人間生活」単元3-1</p> <p>第8回：理科教育の理論（問題解決や科学的探究に焦点を当てた教授・学習論）と模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 高等学校「科学と人間生活」単元3-2</p> <p>第9回：理科教育の理論（理科評価論）と模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 高等学校「科学と人間生活」単元4-1</p> <p>第10回：理科教育の理論（理科評価の実践）と模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 高等学校「科学と人間生活」単元4-2</p> <p>第11回：理科教育の理論（理科教師教育論）と模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 高等学校「理数探究基礎」単元1</p>

2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第12回：理科教育の理論（理科教師教育の実践）と模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 高等学校「理数探究基礎」単元2</p> <p>第13回：理科教育の理論（これから理科教育・科学教育）と模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 高等学校「理数探究基礎」単元3</p> <p>第14回：理科教育の理論（つながる理科・広がる理科）と模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 高等学校「理数探究基礎」単元4</p> <p>第15回：全体のまとめ</p>
授業の進め方	理科教育の理論を解説するとともに、高校の「科学と人間生活」、「理数探究基礎」の学習指導案作成と模擬授業を実践する。模擬授業では、内容、方法、教材等について検討し、授業改善を図る。
能動的な学びの実施	模擬授業は各自で行い、授業構想から学習指導案の作成、教材やワークシートの準備、授業などを行う。授業時間以外にも、自主的に活動する必要がある、必然的に能動的な活動が生まれる。
授業時間外の学修	授業構想から学習指導案の作成、教材やワークシートの準備、授業などを自主的に行う。15回で約60時間相当の授業時間外の学修が必要である。
教科書・参考書	高等学校学習指導要領解説理科編を文部科学省HPからダウンロードする。高校の「科学と人間生活」、「理数探究基礎」の検定教科書（授業開始後に取り寄せます）。適宜プリントを配布する。
成績評価方法と基準	模擬授業などの実技（40%）、指導案や検定教科書をまとめる課題などの提出物（30%）、授業への取り組み（30%）を総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	評価点をつけた課題を授業で返却し、解説する。
オフィスアワー	CampusSquare参照。
留意事項	中学校教員免許（理科）の必修科目。5回以上休んだ場合、単位を与えない。遅刻2回で欠席1回とみなす。模擬授業を無断で休んだり、指導案を期限までに提出しなかったりした場合、単位を与えない。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>zoomによる遠隔授業を取り入れるが、模擬授業は対面授業で行う必要があることから、可能な限り対面を取り入れる。メールとzoomなどを使って、随時指導する。</p> <p>授業への取り組み、模擬授業、学習指導案の内容を総合的に判断する。</p>

2025年度 千住学部時間割

科目名称	理科教育法 (1組)
授業コード	BN372
英語名称	Teaching Method of Science 4
学期	2025年度後期
単位	2.0
担当教員	植木 岳雪
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	理科の基本概念と子ども理解に基づいた指導法、指導技術、教材化についての理解を深め、中学校・高等学校教員として理科を担当するために必要な基礎的知識を身に付け、有為な教員として行動できる能力と態度を養う。この科目では、中学校3年生の理科の模擬授業を45分で行い、1時間の授業が作れるようにする。
科目に関連する実務経験と授業への活用	公立高等学校教員としての実務経験を有し、学校における教科指導と児童・生徒指導の実際を教授する。
到達目標	<p>CP；各教科の指導に必要な諸手法や社会と学校との関わりについて学び、教育手法や技能を育成する科目（指導法関連科目・教職応用科目）に相当する。</p> <p>DP：教職に求められる専門的知識を習得し、学識と技能を身につけ、様々な課題について、各領域で習得した幅広い知識をもとに、解決策を提案することができる。【基礎力・思考力】 生徒の発達段階を踏まえ、学校や学級における理科のあり方を学ぶとともに、理科に特徴づける内容、指導法、評価などを理解する。</p> <p>DP：教職に求められる専門的知識ばかりでなく、教育者として求められる教養を身に付け、一人ひとりの子どもの学習と生活を支援する実践的指導力を有している。【教育実践力】学校における教育実践を省察し、自らの専門性を高めていくことができる。【学び続ける力】 中学校・高等学校学習指導要領（理科）に示されているねらいや指導内容に基づいて、学習指導計画や指導案を企画・立案することを目指す。</p>
計画・内容	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：学習指導案の作成，模擬授業の準備</p> <p>第3回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元1-1</p> <p>第4回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元1-2</p> <p>第5回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元2-1</p> <p>第6回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元2-2</p> <p>第7回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元3-1</p> <p>第8回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元3-2</p> <p>第9回：模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元4-1</p> <p>第10回：模擬授業 模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元4-2</p> <p>第11回：模擬授業 模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元5-1</p> <p>第12回：模擬授業 模擬授業 教室内指導と評価に視点を定めての模擬授業とリフレクション 中学校3年理科単元5-2</p> <p>第13回：教科書に載っていない科学の最先端の内容紹介 物理・化学分野</p> <p>第14回：教科書に載っていない科学の最先端の内容紹介 生物・地学分野</p> <p>第15回：全体のまとめ</p>

2025年度 千住学部時間割

授業の進め方	中学校3年理科の学習指導案作成と模擬授業を实践する。模擬授業では、内容、方法、教材等について検討し、授業改善を図る。
能動的な学びの実施	模擬授業は各自で行い、授業構想から学習指導案の作成、教材やワークシートの準備、授業などを行う。授業時間以外にも、自主的に活動する必要がある、必然的に能動的な活動が生まれる。
授業時間外の学修	授業構想から学習指導案の作成、教材やワークシートの準備、授業などを自主的に行う。15回で約60時間相当の授業時間外の学修が必要である。
教科書・参考書	中学校学習指導要領解説理科編、中学校学習指導要領解説理科編を文部科学省HPからダウンロードする。中学校1～3年生の理科の検定教科書（授業開始後に取り寄せます）。適宜プリントを配布する。
成績評価方法と基準	模擬授業などの実技（40%）、指導案や検定教科書をまとめる課題などの提出物（30%）、授業への取り組み（30%）を総合的に評価する。
課題等に対するフィードバック	評価点をつけた課題を授業で返却し、解説する。
オフィスアワー	CampusSquare参照。
留意事項	中学校教員免許（理科）の必修科目。5回以上休んだ場合、単位を与えない。遅刻2回で欠席1回とみなす。模擬授業を無断で休んだり、指導案を期限までに提出しなかったりした場合、単位を与えない。定期試験が基準に達しない場合、単位を与えない。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	zoomによる遠隔授業を取り入れるが、模擬授業などは対面授業で行う必要があることから、可能な限り対面を取り入れる。メールとzoomなどを使って、随時指導する。 授業への取り組み、模擬授業、学習指導案の内容を総合的に判断する。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法（中・高）
授業コード	BN408
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	神谷 純子
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	特別活動は、学校教育における教育課程の一領域を構成する。子ども個々が実際の活動体験や生活経験を通して、「なすことによって学ぶ」ことを指導の基本理念としている。それゆえ、望ましい集団活動の実際を演習的に体験し、人間関係形成能力や自主性及び実践的な態度形成の力量を育み、学生自らが学べるような授業を構成することを目的とする。この考えを基本に、学校教育において子どもが身に付けたい自発的・自治的な力、社会の一員としての自覚と態度、自己指導能力などについての研究を深める。あわせて、学生自身の社会人基礎力や自己実現能力を養う。
科目に関連する実務経験と授業への活用	学校教員としての実務経験を踏まえて講義内容及び方法に工夫を凝らし、教育現場に根差した知識技術の修得を図る。
到達目標	<p>（１）特別活動の意義や目標の理解、特別活動の4つの内容の理解、実践事例等の分析と考察、学習指導案の作成（とくに学級活動）とその活用、などの理解を目標とする。</p> <p>（２）教職にあって不可欠な子どもとのかかわりや学級をまとめる力量などを幅広く具体的に学ぶことを目標とする。</p> <p>学科のカリキュラム・ポリシーとの関係では、「教職基礎科目」に分類され、教育的指導者に要求される子どもの発達や教育に関する基礎的理解力を養成する科目に相当する。また、学科のディプロマ・ポリシーとの関係では、教育の実践的な活動を支え、それに不可欠な教育学・教科内容学・教科教育学などの専門的知識や技能を修得することを目指す科目に相当する。</p>
計画・内容	<p>第1回：特別活動の目標と内容 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p> <p>第2回：学習指導要領における「学級活動の内容(1)」について（評価・改善活動を含む） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p> <p>第3回：学習指導要領における「学級活動の内容(2)(3)」について 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p> <p>第4回：学校・学級における集団活動のポイント（内容，方法） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p> <p>第5回：学級集団育成の技術 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p> <p>第6回：特別活動における特別支援教育 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p> <p>第7回：学校における実践事例 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p>

2025年度 千住学部時間割

計画・内容	<p>第8回：特別活動の内容構成の理解 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p> <p>第9回：単元計画の基本的な考え方及び学習状況の評価 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p> <p>第11回：各内容の理解（クラブ活動） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p> <p>第12回：各内容の理解（学校行事） 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p> <p>第13回：実践事例 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p> <p>第14回：特別活動と教育課程の編成・他の教育内容との関連 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p> <p>第15回：指導計画の基本的な考え方・作成 予習：参考図書等の関連する章を読む（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）</p>
授業の進め方	基本的に講義形式だが、随時演習等を行う。
能動的な学びの実施	随時演習等を行う。
授業時間外の学修	予習：参考図書等の目次に目を通す（時間 120分） 復習：講義レジュメの整理・理解（時間 120分）
教科書・参考書	主要参考文献： 文部科学省『中学校学習指導要領』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省『高等学校学習指導要領』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』 その他、適宜授業で紹介する。
成績評価方法と基準	(1) 各々の担当者が以下の基準で素点を算出する。 授業内で課す小課題（60%）、最終課題（試験）（40%）の結果を総合的に判断する。 (2) 各々の素点を授業担当回数の割合で比重付けして合算する。
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーや小課題については、随時フィードバックを行う。
オフィスアワー	Campus Square を参照
留意事項	本科目は、教員免許状取得のための【必修科目】にあたる。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	非対面・オンライン（オンデマンド課題）学修 15回に切り替える。 Campus Squareの掲示板またはレポート提出欄に課題・動画URLを提示し、レポート提出欄から課題を提出する形式をとる。 平時（対面授業時）に準ずる。

2025年度 千住学部時間割

科目名称	教育方法論（情報通信技術の活用を含む）（小・中・高）（中・高）
授業コード	BN211
英語名称	
学期	2025年度前期
単位	2.0
担当教員	平山 靖
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	どのような授業をすれば上手く教えられるのでしょうか？どのように教材や学習環境を工夫すれば学習者は上手く学べるのでしょうか？本科目では、授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学びます。
科目に関連する実務経験と授業への活用	16年間、千葉県内の公立小学校で学級担任をしてきました。自治的な学級経営、学習者中心の授業実践等の具体的な経験をもとに、児童・生徒と共に創る授業の楽しさ、実践に役立つ指導法について、能動的な学習を多く取り入れながら講義します。全員に模擬授業に挑戦してもらいます。
到達目標	【学校教育学科が定めるディプロマ・ポリシー】 3．教職に求められる専門的知識を習得し、学識と技能を身につけ、様々な課題について、各領域で習得した幅広い知識をもとに、解決策を提案することができる。【基礎力・思考力】 【学校教育学科が定めるカリキュラムポリシー】 4．子どもの発達や教育の基礎を学ぶための科目（教育学基礎科目） をうけて、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法、情報機器や教材の活用に関する基礎的な知識・技能を模擬授業などを通して身に付け、活用することができる。
計画・内容	第1回 オリエンテーション 教育技術と教育方法・指導案を書く目的・指導案の構成と基本用語 第2回 模擬授業1 指導案作成のための基礎（1）資質能力と学習指導要領 第3回 模擬授業2 指導案作成のための基礎（2）目標の設定と評価規準 第4回 模擬授業3 指導案作成のための基礎（3）資質能力の育成を意識した単元計画と評価計画 第5回 模擬授業4 学習指導案の作成（1）教科・領域の決定と教材研究方法の具体 第6回 模擬授業5 指導案作成のための基礎（4）教科書と単元計画作成とパフォーマンス課題 第7回 模擬授業6 指導案作成のための基礎（5）本時の授業展開方法：教科横断でもとめられる情報活用能力の必要性と情報活用能力Basic 第8回 模擬授業7 指導案作成のための基礎（6）本時の授業展開方法：情報活用能力Basicを用いた授業展開作りの方法と実際 第9回 模擬授業8 指導案作成のための基礎（7）ICT・デジタルコンテンツの活用と実際 一斉指導における効果的な利用方法 第10回 模擬授業9 指導案作成のための基礎（8）ICT・デジタルコンテンツの活用と実際 デジタル教科書の効果的な利用方法 第11回 模擬授業10 指導案作成のための基礎（9）ICT・デジタルコンテンツの活用と実際 個別の学習における効果的な利用方法 第12回 模擬授業11 学習指導案作成のための基礎（10）ICT・デジタルコンテンツの活用と実際 協働的な学習に活かす方法 第13回 模擬授業12 学習指導案の作成（2）指導案のルーブリック ICTを活用した模擬授業準備および授業の撮影についての諸連絡 第14回 学習指導案の作成（3）代表者の指導案検討と代表者の模擬授業 第15回 まとめ・教師の学びと省察の重要性

2025年度 千住学部時間割

授業の進め方	対面授業で実施します。講義や模擬授業の中に、さまざまなアクティブラーニングを取り入れます。パワーポイントによるプレゼンレーションを用意します。
能動的な学びの実施	対面授業で実施します。毎回の授業は原則次のように行います。 教科書の輪読を通し、基礎的な教育技術についての知識を学習します。 毎回9名程度に模擬授業に挑戦してもらいます。課題は、中学校の保健、理科、英語を中心に出します。教育技術を実際に使うことの意義や重要性について体感することを狙いとします。 25分程度の講義をもとにしたミニレポートを毎回行います。講義内容の理解を深め、指導案作成に活かせるようにします。
授業時間外の学修	計60時間以上の授業外学修を行うこと。授業外学修では、事前課題の予習や参考書の読み、指導案の作成、模擬授業に向けての準備などを行うこと。
教科書・参考書	【教科書】 向山洋一 『新版 授業の腕を上げる法則(学芸みらい教育新書1)』 【参考書】 ・中学校学習指導要領(平成29年3月告示) 東山書房 ・高等学校学習指導要領(平成30年3月告示) 東山書房 ・解説 免許状を取得する教科編の学習指導要領
成績評価方法と基準	評価項目 模擬授業、指導案、授業映像の提出がない場合、不可とします 授業中の課題(50%)模擬授業への取り組み(15%)まとめとして作成する指導案・模擬授業映像(35%) ループリック 【授業中の課題】(50%)講義の際、レポートを出します。5点満点のレポート10回分の合計得点です。 【模擬授業への取り組み】(15%)全体での模擬授業15点満点で採点します。 【まとめとしての指導案・授業映像の提出】(35%)指導案のループリックに基づいて評価をします。5項目、5点満点、合計25点で評定します。授業映像を授業の方法、ICTの活用を10点満点で評定します。 合計得点90以上：S、80台：A、70台：B、60台：C、60未満：D(不可)
課題等に対するフィードバック	授業課題に対しては、その場で講評します。 アクティブラーニングの体験や模擬授業では、それぞれに簡潔なコメントをします。
オフィスアワー	Campusquareを参照
留意事項	
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	1. 授業の進め方 5回程度 オンライン授業を実施する。Zoomの利用。5回程度 オンデマンド型での配信とする。 5回程度 課題レポートの提出を求める。 2. 成績評価方法と基準 授業への参加と課題提出状況で出欠を登録し、2/3以上の出席を条件とする。提出課題(学習指導案など)の成績(100%)で評価する。